

《唐招提寺御影堂障壁画 濤声（部分）》

1975年 唐招提寺蔵

日本画の巨匠

# 東山魁夷

自然と人、そして町

Kaigai Higashiyama: Nature, Men and Towns

東山芸術の集大成・唐招提寺障壁画全 68 面 広島初公開！

まもなく開幕！

開会式情報、主要作品解説、特別メニューなど  
更新しました。

会期 平成28(2016)年  
9月17日(土)～10月30日(日)

休館日 月曜日休館(祝日は開館)  
※会期中展示替えを行います。

開館時間 9:00～17:00

※金曜日は20:00まで、入館は閉館30分前まで  
※9月17日は10:00開場

料金 一般 1300円 (1100円)  
高・大学生 900円 (700円)  
小・中学生 600円 (400円)  
※( )内は前売・20名以上の団体料金



- JR広島駅より約1km ●広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)

 広島県立美術館  
Hiroshima Prefectural Art Museum

## 【開会式について】

次の通り、「東山魁夷展 ー自然と人、そして町」の開会式を行います。

報道各位におかれましては、取材・広報にご協力いただきますようお願いいたします。

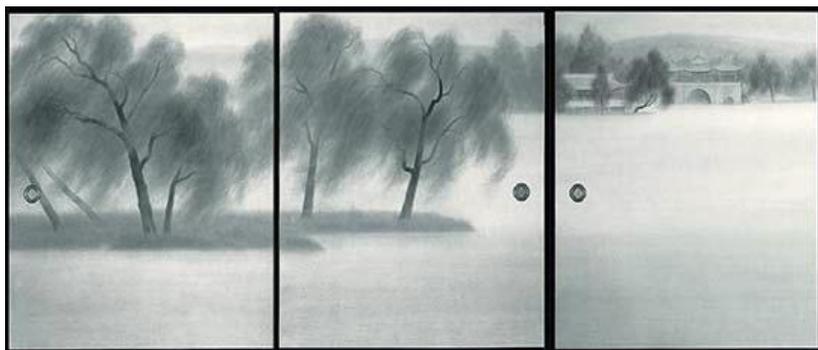
日時／平成28年9月17日(土)午前9時30分～

場所／広島県立美術館 3階企画展示室入口 ロビー

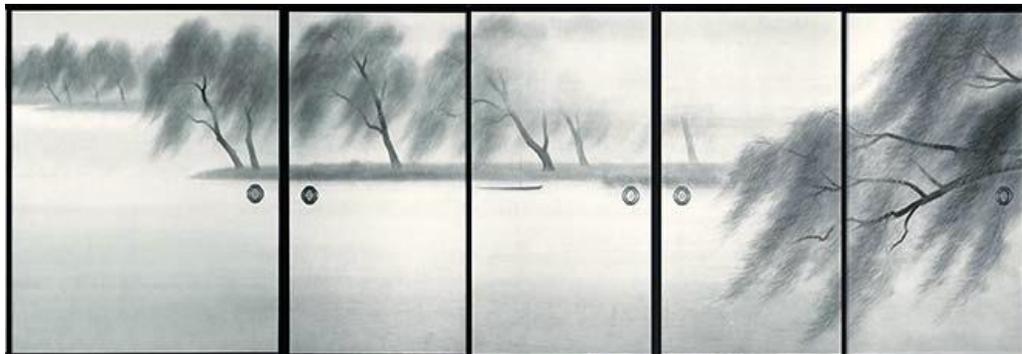
内容／主催者紹介・挨拶、来賓紹介、協賛社紹介、テープカット、内覧

## 【開催趣旨】

清澄で深い情感をたたえた風景画で知られる東山魁夷(1908-1999)は、風景との真摯な対話を通じて生み出した静謐で精神性の高い作品により、戦後の日本画壇に大きな足跡を残しました。中国地方では、17年ぶりの本格的な回顧展となる本展では、初期から晩年までの作品約80点により、国民的画家と謳われた東山魁夷の画業の変遷をたどります。初期の代表作《道》や、その名を一躍世に広めた《白馬》のシリーズに加え、画業の集大成である唐招提寺御影堂の障壁画全68面を特別展示。唐招提寺でも年に数日間しか公開されない本作を含め、日本人の自然観や心情までもが表現された詩情豊かな作品を通し、画家の奥深い絵画世界をご紹介します。



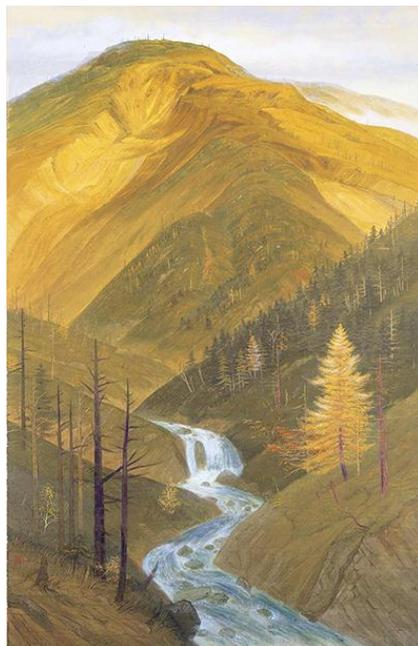
《唐招提寺御影堂障壁画 揚州薫風(部分)》  
1980年 唐招提寺蔵



## 【展覧会の構成】

### I 模索の時代(戦前)

横浜に生まれ、神戸で育った東山は、東京美術学校(現・東京藝術大学)に入学。在学中、木曾路を旅して山国の雄大な自然に触れたことは、風景画家への道の始まりといってよいでしょう。当時の作品からは、師・結城素明の指導のもとで身につけた洋画風の写実表現を見て取ることが出来ます。卒業後は研究科を経て、ドイツに留学。西洋美術史を学び、かつ優れた作例に触れることで日本画家としての方向性を見定めた東山でしたが、帰国後には経済的な困窮や肉親の死といった試練が待ち受けていました。制作上も模索が続く苦難の日々にも、東山は師の助言に従い、自然に深く分け入ることで、独自の画風への道を切り開いていくのです。



《山谿秋色》 1932年  
長野県信濃美術館 東山魁夷館蔵

### II 自然との対話:日本の風景／北欧の風景

戦時中、応召されて死を覚悟した東山は、曇りのない目で自然を見つめることで、何気ない風景にかつてない強い感動を覚えました。さらに終戦翌年、千葉県鹿野山に登った画家は、人生で初めて自身と自然との一体感を得ます。「風景開眼」の瞬間でした。この体験が結実した《残照》は、風景画家としての出発点となり、やがて、代表作《道》を生み出します。画壇での評価を築く一方で、生活が多忙を極めるなか、日常から離れた新たな環境を求めた画家は、1962年、厳しい自然を擁する北欧へと旅立ちます。

この章では、模索の時期を経てたどり着いた東山芸術の出発点と、「青の画家」のイメージを伝える北欧の風景画をご紹介します。

### III 古都の佇まい:京洛四季／ドイツ・オーストリア紀行

北欧から帰国した東山は、長年心を惹かれていた京都の風景にいよいよ向き合います。1968年に発表した《京洛四季》のシリーズは、潤いのある大気や光を繊細に表現。情趣に満ちた京都の四季を画面にとどめました。翌年には、青年期に留学したドイツと隣国オーストリアの古都を訪ねる旅にも出発。自然のうちに潜む生命の輝きと人々の生活が息づく情景は、必ずしも自然そのままの姿ではなく、町とそこに住む人々の営み、人間の培った文化をも表現することで、画業に新たな一歩を築くものでした。

この章では、西と東の古都の情景とともに、ドイツ・オーストリアから帰国した後に生み出した「白い馬の見える風景」の連作もあわせてご紹介します。

## IV 唐招提寺御影堂障壁画

律宗の総本山である奈良・唐招提寺。御影堂は、開祖・鑑真和上の御像を祀ります。奈良時代、苦難を乗り越えて日本に戒律を伝えた和上に捧げる障壁画を、東山はおよそ十年の歳月をかけて完成させました。第一期(1975年完成)は、日本各地を取材してまとめ上げた幽玄な山容と波打ち寄せる広大な海を、上段の間と宸殿の間に絵画化。第二期(1980年完成)は、和上の故国・中国への取材を重ね、厨子の配される松の間と、両隣の桜の間、梅の間に、和上の郷里・揚州と、中国の名勝として知られる黄山と桂林の情景をそれぞれ水墨画で描きました。会場では、御影堂での展示状態を可能な限り再現し、画業の集大成というべき畢生の大作をご紹介します。



「唐招提寺御影堂内部」

## V 終わりのない道

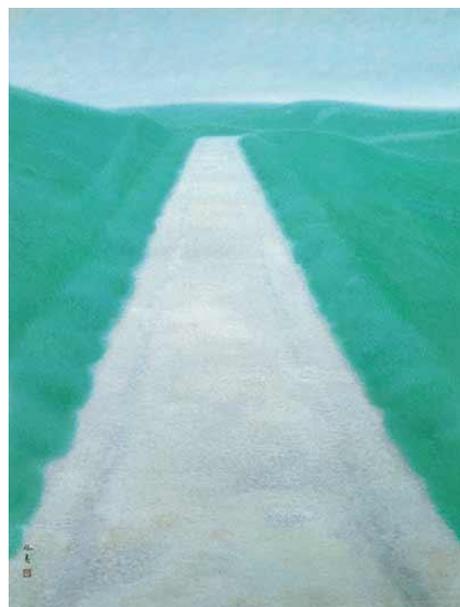
旅を通じて自然に対する心を開き、清澄な作品を生み出してきた「旅の画家」東山は、遠出を控えるようになった晩年にも、心のうちで旅を続けていたのかもしれない。

この章では、唐招提寺御影堂障壁画以降の仕事から絶筆となった作品まで、旅を愛した画家の終わりのない探求の旅をご紹介します。時の流れのなかで自然が見せる生命感を確かに捉えたその作品は、移ろい変化するものこそが生であると考え、その輝きを描き続けた東山の一貫した作画姿勢を伝えています。

### 【主要作品解説】

#### 《道》 1950年 東京国立近代美術館蔵

草地と空、そして一筋の道だけで構成した画面。青森県・種差海岸に取材したこの作品は、夏の早朝の爽やかな野道を描きます。未来へと歩み出そうとした画家の心の状態を表現したという本作は、細かい描写を抑え、特定のどこかではない象徴性の高い風景を作り出すことで、多くの人々が自らの行く末を重ねる、人生そのものを表す風景となりました。戦後日本画の金字塔とも称される、東山の代表作です。



## 《緑響く》

1982年 長野県信濃美術館 東山魁夷館蔵

あるとき、作品の構想を考えていた東山に、モーツァルトのピアノ協奏曲の旋律が浮かびました。すると、思いがけなく一頭の白い馬が、青緑色の湖畔の風景の中に小さく現われ、画面を横切って姿を消して行ったといいます。この白馬の幻影は、やがて東山作品の中でもとくに人気の高い「白い馬の見える風景」の連作を生みます。長野県・蓼科高原を描いた《緑響く》では、白馬と緑樹との対比も爽やかに、潤いのある水辺の風景が描かれています。



## 《唐招提寺御影堂障壁画 濤声(部分)》

1975年 唐招提寺蔵

第1期の制作のうち、宸殿の間を飾る《濤声》は、16面に渡って、波打ち寄せる広大な日本の海を爽やかな色彩で描きます。画面の右から左へと打ち寄せる大きな波。強風にさらされた松は、荒れた岩場の頂上にしがみつくように生えています。山口県の青海島の情景に基づくこの岩をはじめ、日本各地を取材してまとめ上げた雄大な景観は、同時に、御影堂を飾るにふさわしい精神性に満ち、東山が和上に捧げた深い敬愛の念を感じさせます。



## 《行く秋》 1990年 長野県信濃美術館 東山魁夷館蔵

秋深いドイツ北部。落葉を踏んで林を歩いていた画家は、荘重で華麗な自然の生命の燃焼を示す光景に目を奪われました。多彩な色調を織りなす楓の落葉。黒褐色の幹との対比で黄や橙の鮮やかさを際立たせ、さらに金箔を散らすことで華やぎを増した画面からは、画家が実景を評した「楓の黄葉が地上に織り上げた金色のタペストリー」という言葉が想起されるとともに、東山が終生自然に見出し続けた生命の輝きを強く感じ取ることができます。



## 【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、

1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

## 【関連イベント】

### 記念講演会(1)「東山魁夷の生涯と芸術」(広島県立美術館 友の会共催)

日時:9月17日(土) 13:30~[受付開始/30分前]

講師:尾崎正明(本展監修者、茨城県近代美術館館長) 会場:地下講堂

※聴講無料。申込不要。定員200名(先着順)

### 記念講演会(2)「東山魁夷画伯と唐招提寺—鑑真和上の道を辿る旅路—」

日時:9月22日(木・祝) 13:30~[受付開始/30分前]

講師:石田太一(唐招提寺 副執事長) 会場:地下講堂

※聴講無料。申込不要。定員200名(先着順)

### 学芸員によるギャラリートーク

日時:9月23日、9月30日、10月7日(金) 11:00~/10月7日、10月14日(金) 18:00~

※聴講無料。入館券をお求めの上、会場入口付近でお待ちください。

### ワークショップ「日本画に挑戦しよう！」

日時:10月8日(土) 13:30~[受付開始/30分前]

講師:廣藤良樹(日本画家) 会場:3階ロビー

対象:小・中学生(保護者同伴可)

※すでに定員に達しております。

### ロビーコンサート

※いずれも申込不要。鑑賞無料。1階ロビーで行います。

日時9月24日(土) 12:00~

出演:広島文化学園大学 学芸学部 音楽学科

岩満智大(チューバ)、米廣花歩(サクソフォン)、芝 佑佳(ユーフォニアム)、大國悠夏(ピアノ)

日時:9月25日(日) 12:00~

テーマ:東山魁夷と巡る音楽の旅

出演:平福知夏(ソプラノ)、根石照久(フルート)、土門華奈子(ピアノ)

日時:10月9日(日) 12:00~

テーマ:東山魁夷の愛したモーツァルト

出演:上野真樹(ヴァイオリン)、三島良子(ピアノ)

### アートと私の美味しい時間「賀茂金秀で楽しむアート、イタリアン、生演奏」

日時:9月30日(金) 17:00~20:45頃[受付開始/30分前・1階ロビーにて]

会場:3階企画展示室&1階レストランZona ITALIA in Centro

※すでに定員に達しております。

## ウェブ・レポーター大募集

日時:9月23日(金) 17:00~19:30

受付:3階ロビー

対象:インターネットを通して本展PRにご協力いただける一般の方実施当日に限って本展にご招待します。

## 【もっと東山】

当館で開催の「東山魁夷展」のチケット(半券)のご提示で、下記展覧会が当日料金の100円引でご覧いただけます！

ノーベル賞作家 川端康成 珠玉のコレクション展

会場:ひろしま美術館 会期:9月3日(土)~10月16日(日)



## 【縮景園連携】

ワンコイン縮景園 本展入館券のご提示により、100円で縮景園にご入園いただけます。

縮景園共通券 一般1,400円 高・大学生1,000円 小・中学生700円

## 【特別メニュー】

### 徒夢創家(3階ティールーム)

本展の特別メニューは、東山魁夷とゆかりのあるドイツのお菓子であり、日本で初めて広島で製造販売されたバウムクーヘンです。今回提供するバウムクーヘン専門店Cloveer(クローバー)の「焼バウム」は、クッキーやラスクとも違うオリジナルな食感と、こだわりの素材が光る逸品。店頭で味わえるのは期間限定、ティールームのみです。東山作品の余韻とともに、ここでしか味わえない贅沢なひと時をお過ごしください。



※写真はイメージです。

### Zona ITALIA in Centro(1階レストラン)

レストランでは、3品の特別メニューを提供します。前菜の「牛肉インポルテーニ〜ペポーゾ仕立て」はドイツ料理のリンダールラーデン(牛肉ロールの包み煮)をイタリア風にアレンジ。パスタは、《緑響く》など東山が描く美しい自然に着想を得た「ソーセージとジャガイモのほうれん草クリーム」。鮮やかな緑とドイツの伝統的なヴァイスヴルスト(白ソーセージ)がポイントです。カフェタイムにお楽しみいただける「さつまいものモンブラン」は、大胆な構図で描かれた《秋翳》の紅葉する山をイメージしています。東山魁夷にゆかりのあるドイツの料理や、作品をイメージした特別メニューを心ゆくまでお楽しみください。



※写真はイメージです。  
※一部のメニューは、期間限定での提供。

## 【開催概要】

リード: 日本画の巨匠

メインタイトル: 東山魁夷展

サブタイトル: ー自然と人、そして町

キャッチコピー: 東山芸術の集大成・唐招提寺障壁画全68面 広島初公開

展覧会英語名: Kaii Higashiyama: Nature, Men and Towns

料金: 一般 1,300(1,100)円 高・大学生900(700)円 小・中学生600(400)円

※( )内は前売り・20名以上の団体料金

・学生券をお求めの際は学生証のご提示をお願いします。

・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。

前売券販売所:

広島県立美術館、セブン・イレブン(セブンチケット <http://7ticket.jp>)、ローソンチケット(Lコード 62816)、中国新聞社読者広報部、中国新聞各販売所(取り寄せ)など

開催クレジット:

主催 広島県立美術館、中国新聞社、中国放送、イズミテクノ、日本経済新聞社

後援 広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7MHz

協賛  リベラ株式会社、 広島県信用組合

特別協力 唐招提寺

協力 東京国立近代美術館、長野県信濃美術館 東山魁夷館

問い合わせ先 広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22 TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. [ke.yamamoto@nomura-g.jp](mailto:ke.yamamoto@nomura-g.jp) (山本宛)

担当 学芸課 藤崎 綾、事業推進課 山本恵子